

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3547656号

(P3547656)

(45) 発行日 平成16年7月28日(2004.7.28)

(24) 登録日 平成16年4月23日(2004.4.23)

(51) Int.Cl.⁷

F I

A 6 1 K 7/02

A 6 1 K 7/02

A

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

C

A 6 1 K 7/00

M

請求項の数 12 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-205365
 (22) 出願日 平成11年7月19日(1999.7.19)
 (65) 公開番号 特開2000-44431(P2000-44431A)
 (43) 公開日 平成12年2月15日(2000.2.15)
 審査請求日 平成11年7月19日(1999.7.19)
 (31) 優先権主張番号 9809301
 (32) 優先日 平成10年7月21日(1998.7.21)
 (33) 優先権主張国 フランス(FR)

(73) 特許権者 391023932
 ロレアル
 LOREAL
 フランス国パリ、リュ ロワイヤル 14
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (74) 代理人 100108578
 弁理士 高橋 詔男
 (74) 代理人 100089037
 弁理士 渡邊 隆
 (74) 代理人 100101465
 弁理士 青山 正和
 (74) 代理人 100094400
 弁理士 鈴木 三義

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 単一相の透明な水性化粧品組成物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

皮膚及び／または目のメイクアップのクレンジング及び／または除去のための、単一相の透明な水性化粧品組成物において、少なくとも一のアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートであって、アルキル基が1から6の炭素原子を有するもの、組成物全重量に対して少なくとも90重量%の水、及び少なくとも一のメタ重亜硫酸塩を含み、該メタ重亜硫酸塩の量が組成物全重量に対して最大で0.02重量%であり、一価のC₁-C₃アルコールを含まないことを特徴とする組成物。

【請求項 2】

比重が、0.99から1.01であることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

10

【請求項 3】

組成物全重量に対して、95から99.9重量%の水を含むことを特徴とする請求項1または2に記載の組成物。

【請求項 4】

メタ重亜硫酸塩が、メタ重亜硫酸ナトリウムであることを特徴とする請求項1から3のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】

メタ重亜硫酸塩が、組成物全重量に対して0.001から0.02重量%の量で存在することを特徴とする請求項1から4のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

20

アルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートがメチル=パラ-ヒドロキシベンゾアートであることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

メチル=パラ-ヒドロキシベンゾアートが、一以上の他のアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアート及び/または他の保存料との混合物として使用されることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 8】

アルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートの量が、組成物全重量に対して 0.01 から 1 重量%であることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 9】

プロピレングリコール、ブチレングリコール、ヘキシレングリコール、ポリエチレングリコール、グリセロール、ジプロピレングリコール及びこれらの混合物より選択される少なくとも一のポリオールを含むことを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

ポリオールの量が、組成物全重量に対して 0.1 から 9.5 重量%であることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 11】

水が、部分的または完全に、鉱泉水及び/または温泉水より選択される水からなることを特徴とする請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 12】

皮膚及び/または目のメイクアップのクレンジング及び/または除去用のローションを構成することを特徴とする請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明の主題は、少なくとも一のメタ重亜硫酸及び少なくとも一のアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（パラベン）を含む単一相の透明な水性化粧品組成物及び、皮膚及び/または目のメイクアップの穏やかなクレンジング及び/または除去のための前記組成物の使用である。本発明の別の主題は、少なくとも一のメタ重亜硫酸塩を添加することからなる、水性化粧品組成物にアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートを溶解する方法である。

【0002】

【従来の技術】

単一相（単相）の透明な水性液体組成物は、油相を含まず、クレンジング及びメイクアップ除去ローションを構成する組成物である。これらのローションは、一般的に化粧品の分野で、特に乳剤を使用した後に皮膚及び/または目のメイクアップの除去を完全にするために使用される。これらは、多量の水を含み、例えばトリーニングローション及び目のためのメイクアップ除去剤を構成する。

【0003】

これらの単一相の水性液体組成物は、保存料、特に、パラベンとしても既知のアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートを含む。これらのパラベン、特にメチルパラベンは、その抗菌特性により化粧品に広く使用されているが、水性媒体にほとんど溶解しないという欠点を呈する。実際には、これらが完全に溶解しない場合、パラベンは再結晶しがちであり、このことは白色粒子の形成に反映される。このような白色粒子は、透明な組成物の外観及び感覚的品質に許容し難い影響を及ぼす。さらにまた、汚染部位となりうる水相中で保存料としての役割を完全に果たすためには、パラベンは前記水相中に完全に溶解していなければならない。

【0004】

したがって、パラベンは、水性組成物、特に透明な水性組成物中において、可能な限り最大の有効性を達成し、組成物に完全な透明性を得るためには完全に溶解していなければな

10

20

30

40

50

らない。

【0005】

パラベンの溶解度を向上させる一つの解決策は、エタノール等の第一アルコール、グリコール等のポリオールまたは界面活性剤を水性組成物に添加することからなる。しかしながら、第一アルコールの、特に顔用ローションへの添加は、エタノールが刺激性の性質を示し得るために回避すべきである。さらにまた、グリコールの過剰量の添加は、液体組成物、例えばローションに、粘性で付着性の性質を付与する。さらにまた、目的とするのは、過剰量の界面活性剤の使用を、その特に敏感な使用者における皮膚及び目に対する刺激性の性質のため、回避することである。さらにまた、アニオン性及び非イオン性の界面活性剤には、その示す作用がパラベンとは非適合性のものがある。

10

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかるに、従来の欠点を持たず、含まれるパラベンが完全に溶解していることにより完全に透明である単一相の水性液体化粧品組成物が依然として求められている。

【0007】

【課題を解決するための手段及び発明の実施の形態】

実際、出願人は、驚くべきことに、メタ重亜硫酸塩、特にメタ重亜硫酸ナトリウムによれば、パラベン、特にメチルパラベンが完全に溶解した完全に透明な水性組成物が得られることを見出した。最終生成物は、優れた安定性を有し、微生物学的防御特性を保持する。

【0008】

したがって本発明の主題は、単一相の透明水性液体化粧品組成物であって、アルキル基が1から6の炭素原子を有するもの、組成物全重量に対して少なくとも90重量%の水、及び少なくとも一のメタ重亜硫酸塩を含み、該メタ重亜硫酸塩の量が、組成物全重量に対して最大で0.02重量%であることを特徴とする組成物である。

20

【0009】

“透明”との語は、該組成物を収容するボトルを通して、このボトルの後ろに置かれた新聞の頁に印刷された文字が確認できることを意味する。この語はまた、10cmの奥行きをもつ該組成物のサンプルが、200nmから800nmの範囲内のあらゆる波長において少なくとも4%の最大光透過を有することを意味する。

【0010】

“液体組成物”との語は、水を高率で含み、密度が約1、すなわち約0.99から1.01である組成物を意味する。本発明の組成物は、組成物全重量に対して、少なくとも90重量%、好ましくは95重量%の水を含む。水の量としては、組成物全重量に対して99.9重量%までの範囲が可能である。

30

【0011】

その抗酸化特性によって知られるメタ重亜硫酸ナトリウムが、少量のみの使用でもパラベンを溶解させることができ、これによって完全な透明性と同時に優れた保存性を与え、また、メタ重亜硫酸塩の使用量が十分少量(0.02%以下)であるため、美容用途、特に目のメイクアップ除去剤には特に重要な非刺激性が得られることによる比類ない耐性を与えることは、これまで示唆されていない。

40

【0012】

したがって、本発明の別の主題は、少なくとも一のメタ重亜硫酸塩を添加することからなる水性化粧品組成物へのアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートの溶解方法である。

【0013】

メタ重亜硫酸塩は、一般的にアルカリ金属メタ重亜硫酸塩であり、好ましくはメタ重亜硫酸ナトリウムである。これは、期待される結果を効果的に保証する量で存在することが好ましく、例えば、本発明の組成物中に、組成物全重量に対して0.001から0.02重量%、好ましくは0.002から0.01重量%の量で存在可能である。

【0014】

アルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートにおいては、アルキル基は1から6、好ましくは

50

1 から 4 の炭素原子を有する。アルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートとしては、特に、メチル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（メチルパラベン）、エチル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（エチルパラベン）、プロピル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（プロピルパラベン）、ブチル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（ブチルパラベン）及びイソブチル=パラ-ヒドロキシベンゾアート（イソブチルパラベン）を挙げることができる。

【 0 0 1 5 】

本発明の組成物においては、メチル=パラ-ヒドロキシベンゾアートを、単独または、一以上のパラベン及び/または他の保存料、例えばフェノキシエタノールとの混合物として使用することが好ましい。例えば、Nipa社よりNipastatの名で市販のメチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン及びブチルパラベンの混合物、またはNipa社よりPhenonip 10

【 0 0 1 6 】

アルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートまたはアルキル=パラ-ヒドロキシベンゾアートの混合物は、本発明による組成物中に、所望の目的、すなわち、該組成物の優れた微生物保存性に適合する量で使用される。この量には、例えば、該組成物全重量に対して 0 . 0 1 から 1 %、好ましくは 0 . 0 5 から 0 . 5 重量%の範囲が可能である。

【 0 0 1 7 】

本発明による組成物は、好ましくは一価の $C_1 - C_3$ アルコール、特にエタノールを含まないが、これらは、その刺激性及び炎症性の性質の故にその使用の回避が求められている。 20

【 0 0 1 8 】

本発明の組成物は、一以上のポリオール、特にグリコールを、最終生成物に付着性の性質を付与することのない量で含有可能である。本発明による組成物中に使用可能なポリオールの中では、特に、プロピレングリコール、ブチレングリコール、グリセロール、ヘキシレングリコール、ポリエチレングリコール、例えば P E G - 8 , ジブプロレングリコール及びこれらの混合物を挙げることができる。本発明の組成物中のポリオールの量は、一般的に、組成物全重量に対して 0 . 1 から 9 . 5 %、好ましくは 1 から 5 重量%である。

【 0 0 1 9 】

本発明の水性液体組成物は、任意に界面活性剤を含有可能であり、その存在によりメイクアップの除去を改善することができる。この界面活性剤は、一般的に組成物全重量に対して 0 . 0 1 から 5 重量%、より好ましくは 0 . 0 5 から 2 重量%の量で存在する。 30

【 0 0 2 0 】

本発明の組成物に使用可能な界面活性剤としては、ナトリウム=ラウレス=スルファート、例えばHenkel社の製品“Texapon ASV”、ナトリウム=ココアンフォジアセタート、例えばRhodia Chimie社の製品“Miranol 2CM”、ポリソルバート、及びポロキサマー、例えばICI社よりSynperonincの名で市販の製品を挙げることができる。

【 0 0 2 1 】

本発明の組成物において、使用可能な水は、純脱イオン水、また鉱泉水及び/または温泉水であり、換言すれば該組成物の水は、部分的または完全に鉱泉水及び/または温泉水より選択される水からなる。一般的に、鉱泉水は飲用に適するが、温泉水の場合は必ずしもそうではない。これらの各水は、それ自体、溶解したミネラル及び/または微量元素を含有する。これらの水は、その含む特定の微量元素及びミネラルによって、特定の治療目的、例えば皮膚の湿潤化及び脱感作または所定の皮膚病に使用されることが既知である。“鉱泉水または温泉水”との用語は、天然の鉱泉水または温泉水のみならず、付加的ミネラル成分及び/または微量元素を添加された天然の鉱泉水または温泉水、並びに純水（脱イオン水または蒸留水）より調製されるミネラル及び/または微量元素溶液をも示すこととする。 40

【 0 0 2 2 】

本発明に使用される天然の鉱泉水または温泉水は、例えば、Vittelの水、Vichy basinの 50

水、Uriageの水、La Roche Posayの水、La Bourbouleの水、Enghien-lens-Bainsの水、Saint Gervais-les-Bainsの水、Neris-les-Bainsの水、Allevar-les-Bainsの水、Digneの水、Maizieresの水、Neyrac-les-Bainsの水、Lons-le-Saunierの水、Eaux Bonnesの水、Rochefortの水、Saint Christauの水、Fumadesの水、Tercis-les-Bainsの水及びAveneの水より選択可能である。

【 0 0 2 3 】

本発明の化粧品組成物は、局所適用を目的とし、生理学的に許容される媒体を好適に含有する。“生理学的に許容される媒体”との語は、皮膚、粘膜（瞼の内側及び唇を含む）、爪及び／又はケラチン繊維（髪及び睫毛）に適合性の媒体を意味することとする。これらの組成物は、化粧品分野において通常の補助剤、例えば抗酸化剤、香料、スクリーニング剤、着色物質、あるいは親水性または親油性の活性成分をさらに含有可能である。補助剤の性質及び量は、本発明の組成物の特定を変性させないものでなければならない。これらの補助剤の量は、化粧品分野で通常使用されるとおりであり、例えばエマルション全重量に対して 0 . 0 0 1 から 5 % である。

10

【 0 0 2 4 】

本発明の組成物は、特に皮膚及び／または目のメイクアップの洗浄及び／または除去に適したローションを構成する。

【 0 0 2 5 】

さらに、本発明の別の主題は、皮膚及び／または目のメイクアップの洗浄及び／または除去を目的とする、上述の組成物の美容のための使用である。

20

【 0 0 2 6 】

下記の実施例は、本発明の詳説のために与えられ、限定的性質を有するものではない。全ての量は、組成物全重量に対する活性物質の重量%で示した。出発物質としては C T F A 名を記載した。

【 0 0 2 7 】

（実施例 1：顔及び目の洗浄のためのローション）

グリセロール	3 %
メタ重亜硫酸ナトリウム	0 . 0 0 2 %
メチルパラベン	0 . 1 %
脱イオン水	1 0 0 % までの残量

30

【 0 0 2 8 】

メチルパラベンとグリセロールを 6 0 にて混合し、該混合物を激しく室温にて攪拌しつつメタ重亜硫酸ナトリウムを含有する水に導入することにより組成物を調製した。

【 0 0 2 9 】

（実施例 2：顔及び目の洗浄のためのローション）

P E G - 8	2 %
メチルパラベン	0 . 1 %
メタ重亜硫酸ナトリウム	0 . 0 0 5 %
脱イオン水	1 0 0 % までの残量

40

【 0 0 3 0 】

メチルパラベンと水を 8 0 にて混合し、冷却した混合物に、P E G - 8 とメタ重亜硫酸ナトリウムとを室温にて攪拌しつつ添加することにより組成物を調製した。

【 0 0 3 1 】

（実施例 3：顔及び目の洗浄のためのローション）

メチルパラベン	0 . 1 %
メタ重亜硫酸ナトリウム	0 . 0 0 5 %
P E G - 8	2 %
グリセロール	3 %
コーンフラワーウォーター	1 %
脱イオン水	1 0 0 % までの残量

50

【 0 0 3 2 】

メチルパラベンとグリセロールを 6 0 にて混合し、該混合物を激しく室温にて攪拌しつつ水に導入した。溶液が透明になった時点で、メタ重亜硫酸ナトリウム、P E G - 8 及びコーンフラワーウォーターを、相次いで、室温にて攪拌しつつ添加することにより組成物を調製した。

フロントページの続き

- (74)代理人 100106493
弁理士 松富 豊
- (74)代理人 100107836
弁理士 西 和哉
- (74)代理人 100108453
弁理士 村山 靖彦
- (74)代理人 100100077
弁理士 大場 充
- (74)代理人 100110364
弁理士 実広 信哉
- (72)発明者 リアン・ビュイ - ベルトラン
フランス・9 1 6 0 0・サヴィグニ・シュル・ロルジュ・リュ・ロマン・グリモー・1
- (72)発明者 マリー - ロール・カレル
フランス・7 5 0 1 5・パリ・リュ・ラブルスト・1 5

審査官 森井 裕美

- (56)参考文献 特開平 1 1 - 2 7 9 0 4 6 (J P , A)
特表平 0 9 - 5 0 8 6 1 9 (J P , A)
仏国特許出願公開第 2 3 5 8 1 4 8 (F R , A 1)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B 名)
A61K 7/00-7/50
CA(STN)
REGISTRY(STN)